

豊かな自然と豊かな食、 隠れた原石のような村へ

5月のこと。仕事で黒松内町に行くことがあり、そこから足を伸ばして初めて島牧村へ行った。

島牧という地名は「シュマコマキ」というアイヌ語に由来するそうだ。「背後に岩がある」という意味で、海沿いに広がる村の背後には山々が迫っていて、山裾と海辺が接近している。山道を降りるとすぐ海岸線の国道に出て、この日の宿を目指して南下した。

宿は島牧ユースホステルだ。学生のころはユースの会員になり、旅でいろんな地域のユースに何度もお世話になった。そんな時代から随分と久しぶりのユースだが、島牧のユースはペンションのようなとても素敵な建物でお部屋も心地よくてびっくりした。

着くと「今日の夕飯はお寿司ですよ」と言われた。なんとユースのお父さんが釣った魚を使ったお寿司とのこと。魚種も多く島牧の海の豊かさを実感する。朝ごはんはユースの2代目を継いだ息子さんの田んぼのお米を土鍋で炊いたご飯をいただく。魚はもちろん、季節の山菜を取りに行き、野菜も自家栽培のものが多く、味噌や醤油も自家製という、ほぼ自給自足な宿だ。さらに驚くのは、お茶碗などの陶器はお父さんが、木工芸のお皿やお椀は息子さんが作ったものだ。

自然に寄り添い、自分たちの手で作れるものは作る。なんて豊かな暮らしだろう。初めて行った島牧はユースに泊まっただけだったけど、島牧の豊かな食と自然と魅力がたくさん感じられ、食いしん坊な私にはまた訪れたい場所になった。次回は夏のウニの時期に、日本の渚百選に選ばれた江ノ島海岸を歩いてみたい。



すずき もも

イラストレーター・絵本作家／元スローフードさっぽろ事務局長

東京生まれ、北海道夕張育ち。広告や雑誌、カレンダーなどのイラストを描くほか、イラストで綴る町案内の本や絵本などを執筆。ほか、「スローフードさっぽろ」を2016年に立ち上げ、食を中心に環境や暮らしの大事に取り組んでいる。著書に絵本「はるとなつ はたけのごちそうなーんだ？」（アリス館）「おいしい大地、北海道」（イースト・プレス）がある。近著に絵本「はたけのごちそうなーんだ？くだもの」（アリス館）がある。モットーは4つのS。「Simple, Slow, Small, Smile: ささやかに、ゆっくり、ほどほどに、にこにこ」。